

研修会報告レポート①

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業




No.01

開催日時	令和2年9月9日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第1回）学習研修会
開催場所	さんさんセンター紀の川（2階会議室）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（監修者講演） ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計45名 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（富森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.1
【研修概要】	<p>1. 事務局からの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事務連絡（大林先生より） <ul style="list-style-type: none"> ・私保連広告について ○前年度の実績報告（概括）について、 <ul style="list-style-type: none"> ・パワポ資料（別添「資料」参照）をもとに飯田が説明  <p>2. 【監修者講演】馬場耕一郎先生 （内閣府子ども・子育て本部子ども・子育て支援担当 上席政策調査員）</p> <p>『和歌山の食から、保育の展開を考える』</p>   <p>○保育士は、世の中に必要な存在＝エッセンシャルワーカーである。 ○保育の質を考えた場合、このようなコロナ感染症の中では保育者の「生き甲斐」について触れておかなければならない。</p>  <p>《監修者講演》馬場先生</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・生き甲斐のカテゴリーとしては、「お金になること」～専門性～「得意なこと」～情熱～「好きなこと」～使命～「世界がもとめるもの」と考えられる。 ・孤独や切り替えがつかない等の不安要素が離職等にも繋がってしまうし、逆に生き甲斐をもって仕事につけることができれば、園に定着もするし保育者としての質も上がってくるので、今回の研修を通して保育の充実が図れ一人一人の保育者の生き甲斐に繋がりたい。 <p>○社会的な背景等から、食文化の伝承をはじめとする地域社会における文化や伝統等に親しむことが少なくなっている。 ○今後保育施設が食文化を継承していくことが使命と考えられ、日々の保育で伝えていきたい ～ 保育指針等にも趣旨が明記されている</p> 

研修会報告レポート①

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.02

開催日時	令和2年9月9日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第1回）学習研修会
開催場所	さんさんセンター紀の川（2階会議室）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（監修者講演） ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計45名 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（富森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.1
【研修概要】	<p>○今までの保育の前提は「〇〇〇さん一家のような家庭状況」であった。しかし今の時代、子どもの育ちや躾け等の件で園から家庭に委ねることもお願いすることも出来なくなっており、保護者自身も生活習慣が身につくについてなく理解することすら出来い状況である。</p> <p>○これからの時代は子どもの育ちと子育てを社会全体で支えることが肝要となる。</p> <p>○このような状況を鑑みて「子ども・子育て新制度」が施行され、保育所では「質」の高い保育の提供が求められる。（～「量」的な待機児童対策に目処がつき始めている）</p> <p>○そのような背景の中で地方移住の関心が高まっており「子育てし易いまち」として、地域全体で保育の質向上に努めなくてはならない。</p> <p>○地域として共通のテーマを掲げることによって、園同士が話し合える状況となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育で良かった点、改善改良が必要な点等を情報共有し、PDCAを繰り返しながら保育の質を高め合うことができる ・和歌山市の子どもたちが質の高い保育を受けられるように園同士が連携することが大切 ・市民等から興味や注目されることによって、保育者の自己肯定感も高まってくる ・結果、保育者の生き甲斐にも通じてくる <p>○自己肯定感をもち生き甲斐をもった保育者は、正に良好な「人的環境」となる</p> <p>○日頃の保育や研修会等を通して自己肯定感を高めるような環境が大切となる</p> <p>《「袋栽培」の効果について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての保育所・認定こども園で対応が可能 ○子どもたちが身近に感じることができる ○保育者の業務負担軽減になる ～ 保育の質向上にも繋がる <p>3. 【ビデオ講演】JAわかやま営農指導課 OJAわかやま「野菜袋栽培体験」説明ビデオ上映</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="370 1543 635 1910" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="694 1543 959 1910" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> </div> <div data-bbox="1007 1458 1445 1744" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・別添「レジュメ」参照 ★令和2年度 JAわかやま 野菜袋栽培体験★

研修会報告レポート①

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.03

開催日時	令和2年9月9日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第1回）学習研修会
開催場所	さんさんセンター紀の川（2階会議室）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（監修者講演） ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計45名 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（富森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.1
【研修概要】	<p>4. ディスカッション</p> <p>○ビデオ講演を受けて馬場先生より課題をご教示頂き、4名毎でグループワーク（討議）を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「袋栽培」についてどのように取り組もうかと考えているか等々をディスカッションして頂いた ・「袋栽培」と並行して、給食メニューに関連づけたり、スケッチや調べ、表現遊び等周辺活動にもつなげていくことが大切 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p>5. 事務連絡等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員研修部からのお知らせ ○次回の予告／令和2年度（第2回）学習研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時：令和3年2月22日（月曜日）午後2時～ ・開催場所：未定 ・講演講師：馬場耕一郎先生（監修者） すとうあさえ先生（童話・絵本作家／児童文芸家協会 常務理事） （基調講演）「園の行事と」（仮題）